

實 績 報 告 書

令和 5 年 12 月 19 日

(あて先) 富士市長

三

所在地

名 称 富士子ども劇場

代表者
氏 名

望月 晴美

電話

【上市補助金等交付規則第10条の規定により、関係書類を添えて報告します。

1 補助金額	100,000円
2 事業等の目的	富士子ども劇場は、子ども主体のお祭りを毎年実施してきました。平成19年以来富士市の市民活動支援補助金を受け、市内全ての子ども達を対象に異年齢の子ども達が自由に遊べる創造的な遊び空間を企画してきました。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げにはなりましたが、ワークショップやゲームコーナーを同時開催とはせずに、親子で舞台鑑賞としました。乳幼児対象の部分で、0, 1, 2歳半の乳幼児とその親を対象とした「おひだのうえでふうふうあ〜ん」を午前中に、2歳半、3, 4, 5歳の幼児とその親を対象の「みんなといっしょにふうふうあ〜ん」を午後に上演し、同じ劇団による幼児以上も鑑賞できる作品「ねこはしる」を2日目に上演します。富士子ども劇場の会員と共に、広く一般の方たちに参加していただき、より幅広く多くの親子に観劇の1日を提供します。
3 事業等の着手日	令和 5年 4月
4 事業等の完了日	令和 5年11月
5 事業等の実施場所	富士市交流プラザ会議室1,2、多目的ホール
6 参加人数	185名
7 添付書類	・富士子ども劇場2023子どもまつり実績報告書 ・収支決算書 ・領収書コピーNo.1～No.12 ・会場の様子(写真)1～3 ・アンケート集計結果 ・子どもアンケートまとめ集 ・ポスター、チラシ ・例会を楽しもう(当日パンフレット) ・「ふうふうあ〜ん」、「ねこはしる」チケット ・口座振替申請書 ・富士市市民活動支援補助金請求書
8 成果、反省など	別紙

富士市長 小長井 義正 様

所在地

名 前 富士子ども劇場

代表者氏名 望月 晴美

実 績 報 告 書

令和 5年度事業として、富士市補助金等交付規則第3条の規定により補助金の交付を受けた事業を完了したので、下記のとおり報告します。

項	記 事
事業の名称	富士子ども劇場 2023 子どもまつり
実施時期	令和 5年 11月 18日 (土)、 19日 (日)
成果および反省事項 富士子ども劇場では、毎年子どものためのおまつりを実施しています。 今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げにはなりましたが、遊び空間や手作りゲームは中止し、親子で舞台劇を鑑賞するだけの子どもまつりを開催しました。劇団は「アートイン Asibina (アシビナー)」で、女優さん1人が2日間出演し、2日目には2人合流し3名での公演です。 18日 (土) は、0歳～2歳半の乳幼児とその親を対象とした舞台「おひざのうえでふうふうあ～ん」を午前中に、2歳半～5歳の幼児とその親を対象とした舞台「みんなといっしょにふうふうあ～ん」を午後に公演しました。20組～30組の親子で鑑賞するので、富士市交流プラザの会議室1、2を使用しました。 小さな舞台に、一人の女優さんが、歌いながら踊りながら、おひざに座った子どもに笑顔を投げかけます。羊毛フェルトのお鍋や、野菜たち、蝶々、お花。小さな傘、長靴、水たまり。雨が止んで、お日様が顔を出したらジョーロでお花にお水をあげます。そこには、子ども達の大好きな行動がいっぱいです。子ども達はじっと観ていました。大人たちが(私も)驚くほどでした。 舞台が終わると、子ども達を舞台に招いて、使用した小道具で思い思いに遊ぶコーナーがありました。使用した小さな楽器や、羊毛フェルトのやさしい感触に夢中になっていました。 19日 (日) は、富士子ども劇場例会「ねこはしる」を一般の方たちにも参加していただき、多目的ホールでの公演でした。 「のはらうた」の工藤直子さん原作。舞台は衝立や、箱馬、丸ただけでシンプルですが、糸と紙コップを使った楽器「ストリングラフィ」が印象的です。 内気でのろまな黒猫のランが、ある日、魚と友達になって成長していくという話。友情、それだけではない命にたどり着くストーリーに感動します。舞台では、風の音、カエルや虫の鳴き声、水の流れなどを、様々な楽器で表現します。オカリナ、ギタレレ (ギターとウクレレの仲間)、ストリングラフィ。役者の声も動きもすべてが共鳴しあって語り掛けます。富士では、2002年、2012年、そして今年度3度目の公演でした。 反省点としては、チケットが目標に達成しなかったことです。舞台劇は乳幼児には無理と考えるしまうのか、チケットの動きが悪かったです。事前に女と男のフォーラムで、0歳児からのワークショップを行い宣伝したりしましたが、効果はありませんでした。もっと多くの親子に鑑賞して欲しかったです。 劇場も来年は50周年を迎えます。子育ても様変わりしてきているのはわかりますが、子どもは何も変わっていません。舞台を観たいし、楽しみたいです。 来年度は、小さい人には音楽を、もう少し大きな人にはマジックを予定しています。今年度の反省を繰り返すことなく、実施できるように活動していきたいです。	

収 支 決 算 書

収入の部

No.	項目	金額(円)	説明
1	富士市補助金	100,000	
2	公演チケット収入	108,700	「おひざのうでふうふうあ〜ん」 親子ペア券2500円×19 大人追加2000円×5 「みんなといっしょにふうふうあ〜ん」 親子ペア券2500円×16 当日2600円×1 大人追加2000円×4子ども追加当日600円×1
3	公演チケット収入	32,000	「ねこはしる」 2000円×16
4	協賛金	34,000	会員、OG、一般、企業より
5	子ども劇場拠出金	227,139	劇場の会費より捻出
6			
合計		501,839	

支出の部

No.	項目	金額(円)	説明	領収書No.
1	会場費	59,390	富士市交流プラザ多目的ホール、 会議室1, 2	1~3
2	劇団謝金	390,385	劇団へ(上演料、交通費、食費) 昼食	4 5
3	劇団宿泊費	22,000	ビジネスホテル1名2泊、2名1泊	6, 7
3	ポスターチラシ紙代	30,064	公共機関、幼稚園、保育園配布	8~12
4				
5				
6				
合計		501,839		